

研修名 自然と保育研究研修1

平成28年6月10日(金) 9:00~16:00

講演「自然観察から「想像」をひろげよう、気づいたことを「探求」しよう」

一日々の保育できっと役立つ観察力ー

講師 法然院森のセンター 久山 慶子 氏



1 講演要旨

1) オリエンテーション「自然を楽しむこと」

① 自然観察を通して感じてほしいこと

- ・ 自然界をイメージする
- ・ 自然と人とのつながり
- ・ 森の自然を読む

② 自然観察をする上で大切にしたいこと

- ・ 自分の感性を持って周囲の自然と触れ合う
- ・ 全体と部分に視点をおく



2) 自然観察、散策「探検・発見、身近な自然」

- ・ 石垣に“スマレモ”や“くらまこけ”が生えている。スマレモは黄色く、きのこことけの間の生き物。菌類でもあり、植物でもある。くらまこけは乾いて縮こまっているこけであり、水を加えるとフワッと広がる。こけは雨水と光の光合成で育つ。
- ・ 切り株にきのこが生えている。きのこが生えているから、健康な土を作ってくれる。=新しい命の誕生である。
- ・ 山のふもとほど、椋木(むくのき)などの落葉科の木が生えている。椋木の葉は、触るとザラザラしており、爪を磨けると言われている。昔は漆器を磨くのに使われていた。
- ・ しいの木(しいの木)の葉は、裏側が銀色のように見えるのが特徴である。
- ・ 楠(くすのき)は縄文時代からあり、全身に強いにおいを持っており、丈夫である。葉をこすると、ツンとしたにおいがする。
- ・ “虫こぶ”というのは、葉に虫が卵を産み、成長していくと共に葉が膨れたものである。
- ・ 緑色の葉や実が落ちるのは、鳥の仕業だったり、木がいらなくなると感じたものを自分で落としたりするためである。(植物の新陳代謝)



- ・実や種にはそれぞれの工夫があり、甘いにおいがするものは、鳥に食べてもらって他のところにフンを落としてもらうためだったり、逆に鳥に食べられないように固い種をつけたり、羽のようなものがついている種は風に乗って飛ばうとするためであったりと、木々によって様々である。
- ・森で耳を澄ませると、鳥の声が聞こえ、木に囲まれたところでは“チュンチュン”というひな鳥の声が聞こえる。今、鳥はちょうど子育ての時期であり、餌を求める声である。また、少し森が開けたところでは、鳥のさえずりが聞こえる。さえずりはオスが多く、家族を守るためや求愛のために鳴く。

3) ワークショップ

- ・グループに分かれ、散策の中で気付いたことや、疑問に感じたことなどを話し合い、まとめて発表をする。
- ・発表内容
 - 1 グループ：自然と共に生きる
 - 2 グループ：ものの見方と気付き
 - 3 グループ：自然は循環
 - 4 グループ：自然のサイクル



4) 講師の方より

自然の中に出かけたら…

- ・ゆっくり歩こう
- ・遠くの風景を見よう
- ・五感を引き出そう
- ・季節を感じよう
- ・自然を科学しよう
- ・人の暮らしと自然の関係を知ろう



2 感想

この研修を受講し、“自然”は命のサイクルであるということと、昔から人間と共存してきたものであるということが分かりました。今回学んだ“自然のおもしろさ”を、私たち保育者が日頃から五感を使って感じる事が大切で、子どもたちの発見や「なんで？」という好奇心を膨らませていくことに繋がると感じました。ありがとうございました。

(記録 あひるが丘保育園 戸塚万結)